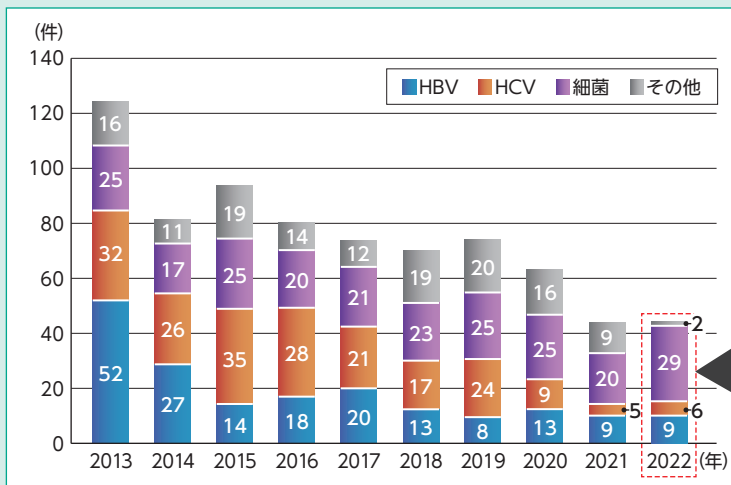




輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 -2022年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2022年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、HBV 1件、細菌 4件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例数の推移と2022年に報告された病原体別の症例数とその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	9	1
HCV	6	0
細菌	29	4
HEV	2	0
計	46	5

症例概要 (献血血液の検体等に病原体等が検出され、 輸血による感染と特定された症例) -2022年-

細菌

● 自発報告: 輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	症状	発現時間 (投与開始後)	輸血後の検査結果		患者転帰
							輸血用血液製剤	患者血液	
1	Ir-PC-LR (2022.11)*	悪性腫瘍	70代	男	頭痛、吐き気、咳嗽、発熱	50分	<i>Morganella morganii</i>	<i>Morganella morganii</i>	回復 (後遺症あり)
2	Ir-PC-LR (2022.11)*	狭心症に対して緊急手術	70代	男	血圧低下、多臓器不全	翌日	<i>Morganella morganii</i>	<i>Morganella morganii</i>	死亡
3	Ir-PC-LR (2022.11)	骨髄異形成症候群	70代	女	悪寒、戦慄、発熱、嘔吐、呼吸苦	1時間	<i>Staphylococcus aureus</i>	<i>Staphylococcus aureus</i>	回復
4	Ir-PC-LR (2022.3)	骨髄異形成症候群	50代	女	悪寒、戦慄、呼吸苦、発熱、血圧低下	40分	<i>Escherichia coli</i>	<i>Escherichia coli</i>	回復

* 同一採血由来の分割された血小板製剤

HBV

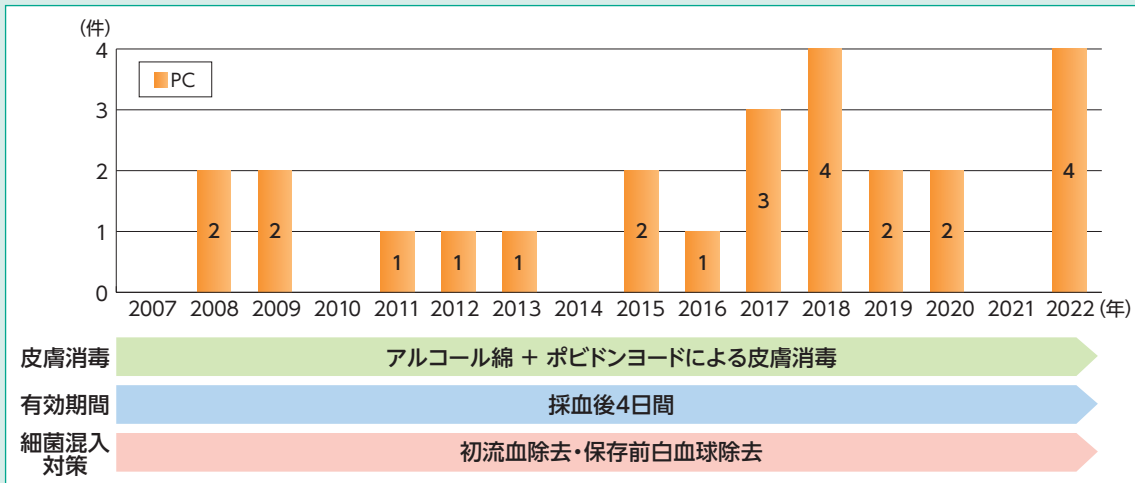
● 献血後情報: 献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した事例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	再生不良性貧血	Ir-PC-LR (2021.7)*	80代	女	HBs-Ag	陰性	HBV-DNA HBs抗原	21週	◆	◆	不明

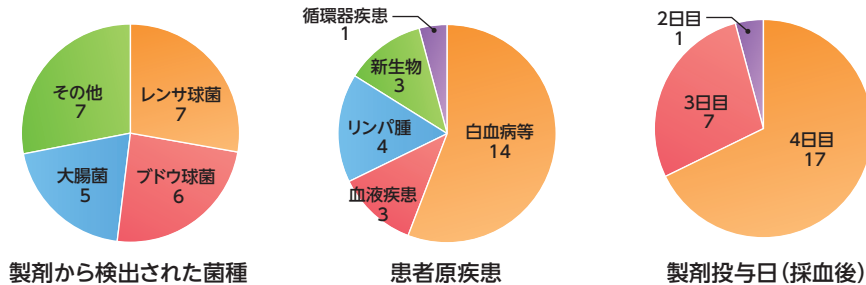
* 当該献血はHBV-NAT陰性、4週間後献血時にHBV-NAT陽性 ◆比較データなし

輸血後細菌感染症(報告年別特定例)と安全対策

初流血除去・保存前白血球除去導入後は赤血球製剤による輸血後細菌感染症は確認されていないが、血小板製剤による感染は依然確認されており、2022年は4件が確認された。

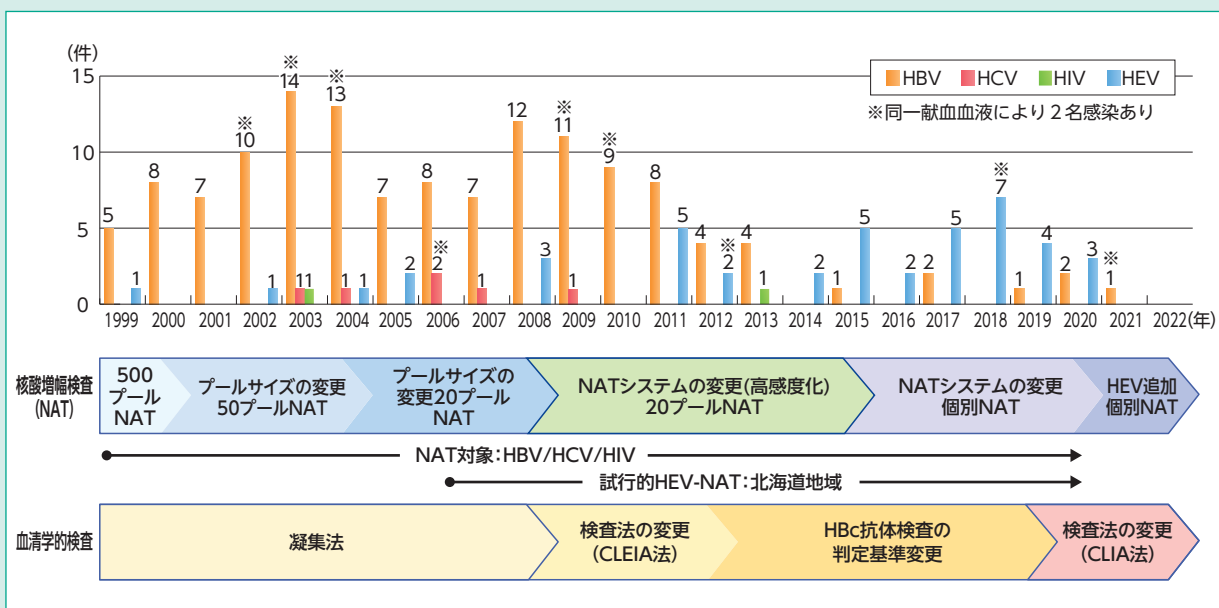


● 2007年以降の特定例25件の各内訳



輸血後HBV、HCV、HIV、HEV感染症原因血液の採血年別件数と安全対策の推移

個別NAT導入後は8件の輸血後HBV感染が確認されており、2022年(採血は2021年)は1件確認された。輸血後HEV感染は2020年8月よりHEV-NATを導入してからは確認されていない。



輸血情報 2308-180

(発行元)

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。



日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報 検索



スマートフォン・タブレットにも
対応しています。

